

GS
Grand Seiko



ALIVE
IN
TIME

セイコーウォッチお客様相談室(グランドセイコー)
0120-302-617 (9:30~21:00、土日祝日は17:30まで)

grand-seiko.com

#SLGB003

Kirill Gerstein
Piano Duo Recital
Mao Fujita



Seiko Presents

キリル・ゲルシュタイン
×
藤田真央

2025年12月9日(火) 19:00開演 サントリーホール

7:00p.m., Tuesday, December 9, 2025 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ

特別協賛： SEIKO

シューベルト:

創作主題による8つの変奏曲 変イ長調 D813 ★

F. Schubert: 8 Variations on an Original Theme in A-flat major, D813

第1奏者: キリル・ゲルシュタイン / 第2奏者: 藤田真央

シューマン:

アンダンテと変奏曲 変ロ長調 Op.46 ☆

R. Schumann: Andante and Variations in B-flat major, Op.46

第1ピアノ: キリル・ゲルシュタイン / 第2ピアノ: 藤田真央

ラヴェル:

ラ・ヴァルス ☆

M. Ravel: La Valse

第1ピアノ: 藤田真央 / 第2ピアノ: キリル・ゲルシュタイン

* * * * *

ブゾーニ:

モーツァルト「ピアノ協奏曲第19番」の終曲による協奏的小二重奏曲 K.459 ☆

F. Busoni: Duetto Concertante based on the Finale of Mozart's Piano Concerto No.19 in F major, K.459

第1ピアノ: キリル・ゲルシュタイン / 第2ピアノ: 藤田真央

ラフマニノフ:

交響的舞曲 Op.45 ☆

S. Rachmaninov: Symphonic Dances, Op.45

第1楽章: ノン・アレグロ

1st Mov.: Non allegro

第2楽章: アンダンテ・コン・モート (テンポ・ディ・ヴァルス)

2nd Mov.: Andante con moto (Tempo di valse)

第3楽章: レント・アッサイ〜アレグロ・ヴィヴァーチェ

3rd Mov.: Lento assai - Allegro vivace

第1ピアノ: 藤田真央 / 第2ピアノ: キリル・ゲルシュタイン

★: 連弾 ☆: 2台ピアノ

キリル・ゲルシュタイン×藤田真央 2025年日本公演

12月 5日(金)	[名古屋]	愛知県芸術劇場コンサートホール	主催: CBCテレビ
12月 6日(土)	[西 宮]	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール	主催: ABCテレビ、兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
12月 7日(日)	[北九州]	北九州市立響ホール	主催: (公財)北九州市芸術文化振興財団
12月 9日(火)	[東 京]	サントリーホール	主催: ジャパン・アーツ
12月10日(水)	[東 京]	トッパンホール	主催: TOPPANホール
12月13日(土)	[所 沢]	所沢市民文化センター ミューズ	主催: (公財)所沢市文化振興事業団
12月14日(日)	[三 鷹]	三鷹市芸術文化センター 風のホール	主催: (公財)三鷹市スポーツと文化財団
12月16日(火)	[川 崎]	ミューザ川崎シンフォニーホール	主催: 神奈川芸術協会
12月18日(木)	[熊 本]	熊本県立劇場 コンサートホール	主催: KAB熊本朝日放送
12月19日(金)	[広 島]	上野学園ホール	主催: 広島ホームテレビ

キリル・ゲルシュタイン (ピアノ)

Kirill Gerstein, Piano



© Kaupo Kikkas

キリル・ゲルシュタインは、ロシア、アメリカ、中央ヨーロッパの伝統と飽くなき好奇心を融合させた音楽作りで知られる。バッハからアデスまで幅広いレパートリーを通じ、明快な表現、深い洞察力と知性、巧みな技術、想像力豊かな音楽性を兼ね備え、世界のトップ演奏家としての存在感を示している。

ロシアのヴォロネジ生まれ。14歳で渡米し、史上最年少でパークリー音楽大学に入学、ドミトリー・バシキーロフやフェレンツ・ラドシュに師事。第10回ルービンシュタイン国際ピアノ・コンクール優勝後、ギルモア・ヤング・アーティスト・アワードやエイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラントを受賞し、その賞金でティモ・アンドレス、チック・コリア、ブラッド・メルドーらに新曲を委嘱した。

ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ボストン響、ニューヨーク・フィルなど世界有数のオーケストラと共演し、コンツェルトハウス、楽友協会、ウイグモア・ホール

などの主要ホールでリサイタルを行っている。

録音ではブゾーニ「ピアノ協奏曲」、チャイコフスキー「ピアノ協奏曲第1番(1879年版)」、ガーシュウィン作品集「ザ・ガーシュウィン・モーメント」などが高く評価され、2025年にはドビュッシーの晩年作品とコミタスの作品を組み合わせたアルバム「Music in Time of War」でオーパス・クラシック賞を受賞した。

教育者としてもシュトゥットガルト音楽大学やハンス・アイスラー音楽大学で教授を務め、クロンベルク・アカデミーの「サー・アンドラーシュ・シフ・プログラム」で後進の育成にも力を注いでいる。

度々行う来日公演で常に好評を博しており、2025年4月の日本公演では、シューマン、アデス、クルターグ、ラフマニノフを組み合わせた意欲的なソロ・プログラムに加え、室内楽や協奏曲でも圧倒的な音楽性を示し、高い賞賛を受けた。



Kirill Gerstein

藤田 真央 (ピアノ)
Mao Fujita, Piano

© Kaupo Kilius

1998年東京都生まれ。3歳でピアノを始める。

2017年、第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールで優勝。2019年に第16回チャイコフスキー国際コンクール第2位を受賞。繊細さと圧倒的なヴィルトゥオジティを兼ね備えた唯一無二の音色は世界的に高く評価され、名だたる劇場で一流楽団との共演を重ねている。ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、BBCプロムスなどの主要音楽祭でも活躍し、今もっとも国際的に注目される日本人ピアニストのひとりである。

2025/26シーズンには、チョン・ミョンファン指揮ミラノ・スカラ座フィル、ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮フランス放送フィルとの日本ツアーのほか、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルとの欧州ツアー、ケント・ナガノ指揮ベルリン・ドイツ響とのドイツツアー等を予定。ボストン響、トロント響、韓国KBS響、ローザンヌ室内管との初共演に加え、チェコ・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ウィーン響等との再共演も決定している。リサイタルでは欧州

ツアーのほか、カーネギー・ホールへの3度目の登場を含む北米8都市のツアーを控える。

これまでに、セミヨン・ビシュコフ、リッカルド・シャイー、クリストフ・エッセンバッハ、ダニエレ・ガッティ、マレク・ヤノフスキ、アンドリス・ネルソンス、ラハフ・シャニといった世界的指揮者と共演。オーケストラではロイヤル・コンセルトヘボウ管、クリーヴランド管、バイエルン放送響、ミュンヘン・フィル、ロサンゼルス・フィル、ワシントン国立響、NHK響といった多数の名門楽団と共演を重ねる。

室内楽では、ルノー・カプソン、ゴートイエ・カプソン、レオニダス・カヴァコス、アントワン・タメステイ、キアン・ソルターニらと共演。ハーゲン弦楽四重奏団との共演では、ザルツブルク音楽祭にデビューを果たした。

2021年、ソニー・クラシカル・インターナショナルと専属契約を締結。翌年のデビュー・アルバム「モーツァルト：ピアノ・ソナタ全集」がオーバス・クラシック賞を受賞した。24年に「72 Preludes ～ショパン、スクリャービン、矢代秋雄：24の前奏曲」を発表。著書に『指先から旅をする』、『指先から旅をする2』（文藝春秋）がある。現在、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学にてキリル・ゲルシュタインに師事。



Mao Fujita

シューベルト：創作主題による8つの変奏曲 変イ長調 D813

ウィーンで活躍したフランツ・ペーター・シューベルト(1797–1828)は、ピアノ連弾曲については35曲ほど残した。ソナタ「グランド・デュオ」に代表される大規模な作品をはじめ、変奏曲、ロンド、「軍隊行進曲」などの行進曲、レントラーなどの舞曲まで多岐にわたっており、歌曲を数多く残したこの作曲家ならではの歌謡的な美しさ、息の長い旋律線、絶妙な転調などが特色となっている。「創作主題による8つの変奏曲」は、1824年6月または7月の作と推定されている。シューベルトがエステルハージ・フォン・ガラント伯爵の別荘に滞在し、同家の令嬢たちに音楽を教えたこの年の夏には、教育上の目的もあって連弾曲が集中的に作曲された。今回演奏される変奏曲は、変イ長調の創作主題に始まるが、転調する中間部を持つ構造で書かれており、変奏曲の主題としては手が込んでいえるだろう。そして、この主題をもとに、八つの変奏が続く。抒情的な旋律が奏でられる第3変奏、変イ短調に転じるリート風の第5変奏などを経て、レントラー舞曲風の快活な第8変奏によって、華やかに締めくくられる。

シューマン：アンダンテと変奏曲 変ロ長調 Op.46

ドイツ・ロマン派の作曲家ローベルト・シューマン(1810–56)のピアノ独奏曲には、数々の名作がある。さらに彼は、ピアノ連弾曲も数曲残したが、2台ピアノのための作品については、この「アンダンテと変奏曲」ただ1曲である。1843年に作曲されたこの変奏曲は、オリジナルが室内楽曲であり、2台のピアノ、二つのチェロ、ホルン、という編成だったが、楽器間のバランスに問題を感じたシューマンは、一部をカットしたうえで、2台ピアノのための曲として書き直した。初演は、クララ・シューマンとメンデルスゾーンによって行われたと伝えられている。曲は、アンダンテ・エスプレッシヴィオ、変ロ長調の優美な主題に始まる。八つの変奏が続くなかでは、躍動的な第4変奏、葬送行進曲を思わせる第5変奏などが特徴的であり、リズムカルな第8変奏のあと、主題が回想されて終わる。

ラヴェル：ラ・ヴァルス

フランスの作曲家モーリス・ラヴェル(1875–1937)のピアノ曲は、古典的な格調高さや、精緻な構成を、特色としている。彼が1920年に完成させた「ラ・ヴァルス」は、元来バレエのために作曲されたオーケストラ曲だが、彼自身によるピアノ独奏版と2台ピアノ版もあり、今回は1921年に書かれた2台ピアノ版が演奏される。「ラ・ヴァルス」とは、フランス語でワルツを意味する。曲は、ワルツの旋回を、渦巻いている雲のイメージに重ね合わせた、幻想的かつ劇的な内容を持っており、作曲者自身が譜面に次のように記している。「渦巻く雲の切れ目を通して、ヴァルス(ワルツ)を踊る何組かのカップルが見え隠れする。雲はしだいに晴れてゆき、ヴァルスで旋回する人々でいっぱいの大広間が見えてくる。やがて舞台は明るくなり、シャンデリアがフォルティッシモで光を放つ。1855年ごろの宮廷。」

ブゾーニ:モーツァルト「ピアノ協奏曲第19番」の終曲による協奏的小二重奏曲 K.459

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は、自身のピアニストとしての演奏活動に直結することもある、数多くのピアノ協奏曲を残した。1784年12月にウィーンで完成された第19番は、陽気で楽しい雰囲気になったへ長調のピアノ協奏曲であり、三つの楽章から成る。今回演奏される「協奏的小二重奏曲」は、そのなかの終楽章(第3楽章:アレグロ・アッサイ)を、イタリア出身の作曲家でピアニストのフェルッチョ・ブゾーニ(1866-1924)が、2台ピアノのために編曲した作品である。軽快で躍動感に富むフィナーレとしてある原曲の第3楽章を、ほぼ忠実になぞった編曲となっているが、そのなかにも、名ピアニストだったブゾーニらしい工夫が見られる。二人のピアニストが親密に対話しているような一体感を追求する一方、二つのパートのコントラストを強調することで、スリリングな演奏効果を生じさせている。また、原曲のなかで独奏ピアニストが披露するカデンツァの部分は、二人の掛け合いで進むように、巧みに作られている。

ラフマニノフ:交響的舞曲 Op.45

ピアノの名手でもあったロシア出身の作曲家、セルгей・ラフマニノフ(1873-1943)が、アメリカに移って以後、1940年10月に書きあげた「交響的舞曲」は、彼の最後の完成作とされる。元来オーケストラのために書かれ、交響曲を思わせる規模の作品であり、今回演奏される2台ピアノ版も、ピアニストにとって大変な難曲である。なお、当初は「幻想的舞曲」というタイトルが付けられ、作品を構成する三つの楽章は「朝」「昼」「晩」と名づけられていたが、これらの題名は取り除かれた。

第1楽章:ノン・アレグロ、ハ短調〜ハ長調。ロシアへの郷愁を感じさせる、哀愁を帯びた旋律と、リズミカルで決然たる力強さ。そのコントラストが印象的である。

第2楽章:アンダンテ・コン・モート(テンポ・ディ・ヴァルス)、ト短調。不気味なファンファーレを伴って、陰鬱なワルツ(ヴァルス)が幻想的に展開する。

第3楽章:レント・アッサイ〜アレグロ・ヴィヴァーチェ、ニ長調〜ニ短調。3部形式のスケルツォのスタイルで書かれているが、調やテンポはたびたび変わる。変化に富む楽想が展開するなかで、グレゴリオ聖歌「怒りの日」の旋律なども現れる。



ARTIST
SUPPORT

2025年度ご支援いただいた皆さま

2025年11月26日現在 敬称略

<年間サポート>【個人サポーター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O.
大原 志津子 片山 由美子 K.K. 神田 尚子 北村 眞 小林 真希子 R.K. 相良 延利
新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly K.T.
トゥルーラブ 真智子 苅米地 英人 K.N. E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 T.H.
樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 M.H. 松尾 芳樹 E.M. K.M.
真野 美千代 三木谷 晴子 水野 靖彦 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子
(匿名希望 17名)

<年間サポート>【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社 青林堂 三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフブラン株式会社



詳細はこちら